

# Intakeの重要性 — Input, Intake, Outputの役割 —

金子 俊次<sup>†</sup>

## Importance of Intake: Roles of Input, Intake, and Output

Toshitsugu Kaneko

### 1. はじめに

筆者が高校生の頃の英語の授業と言えば、訳読重視の授業であり、教員になってからもしばらくその流れが続いていた。果たしてこれまでの訳読重視の教授法で生徒たちの学習意欲は上がり、この指導法は効果的なのだろうかと疑問を持つようになった。教員経験を積んでいく中で出会ったのが「コミュニケーション重視の英語教育」と「Input（理解）、Intake（定着）、Output（表現）」という2つの言葉であった。「コミュニケーション」とは互いに意志や感情、思考を伝達し合うこと、言語・文字・身振りなどを媒介として行われる活動のことであり、「コミュニケーション重視の英語教育」とは「コミュニケーション」の道具として生徒が英語を使いこなせるようになるための教育である。そして「コミュニケーションの道具として生徒が英語を使いこなせるようになる教育」を実現するためにはInput, Intake, Outputのバランスのとれた授業を行うことが大切であると筆者は考える。

### 2. Input, Intake, Outputの役割

#### 2.1 Ellisの言語習得モデル

Ellis (1995) はこの研究においてInput, Intake, Outputの役割を明らかにした。学習者はまずリスニング、リーディングに関わらず様々な形で言語のInputを受ける。受けたInputは、注意が向けられず消えて行く部分も多いが、その中で学習者によって選択的に注意が向けられたものがInputされた知識となり、それがIntakeされ学習者によって内在化され、潜在的知識として貯蔵される。Outputは潜在的知識として脳内に貯蔵された言語データの中から引き出される。InputからIntakeそしてOutputに移行するためには、その間の情報選択にあたって注意が働き必要な情報だけが残され操作運用される。そのため脳内に蓄積される言語データの量は徐々に少なくなっていく。全ての情報が正しくInputされ、脳内に保存されるとは限らない。いずれかの過程で誤った形が保存されてしまい、Outputされる場合

もある。言語習得を効果的に進めるためには、Intakeの量を増やし潜在知識の量と質を確保することが必要である。このモデルでは、Intakeの量を増やす段階で重要な役割をしているのが気づきである。したがって、より適切に注意が向けられ気づきがおこることが、言語処理の自動化につながるかと述べている。筆者はこの指摘に基づいた効果的な授業のやり方を考えるようになったのであった。

#### 2.2 InputやIntakeが不十分だとどうなるか

InputやIntakeが不十分だとOutputにどのような影響を与えるのだろうか。Ellis (1985) はInput, Intake, Outputの流れは、全情報が正しくInputされ、脳内に保存されるわけではなく、誤った情報が脳内に保存されてしまい、誤ってOutputされる場合もあると述べている。齋藤 (2011) はIntakeを促す活動としてIntake Readingを紹介し、IntakeからOutputの流れに関して次のように述べている。

齋藤 (2011) はIntakeを促す活動として、生徒をペアにして立たせて、片方の生徒はテキストを見ながら教科書などの英文を読み、もう一方の生徒はその英文を何も見ないで復唱するIntake Readingを推奨する。そして、Intake Readingを行う前には声を出して読むことができること、それらの文章の意味、内容を正しく理解していること (Input) が必要条件であると述べている。また齋藤 (2011) はIntake Readingの実践における誤りの例として“A Canadian couple took a trip to Japan.”を“A Canadian couple took trip to Japan.”と復唱してしまったり、“Beautiful ikura-zushi was immediately placed in front of the amazed Canadians.”を“Beautiful ikura-zushi immediately placed in front of the amazed Canadians.”と復唱してしまったり、冠詞や受身形に関しては説明を受けたはずなのに習ったものが身につけていないと述べている。

筆者は担当している英語表現の授業で文法事項をInput, Intakeした後に「瞬間英作文」というOutput活動を行なっている。「瞬間英作文」とは各レッスンでInput, Intakeした知識を元に教師が言った日本語を生徒が瞬時に英語に直す各レッスンの最後に行われるWriting活動である。以下は

<sup>†</sup> 2018年度修了（人文学プログラム）、現所属：市立札幌平岸高等学校

生徒がよく間違える例をまとめたものである。

○日本語の順序の影響によるもの、語順間違い、動詞の間違い

- ・私はテニスクラブです。  
I was tennis club.
- ・私は一生懸命勉強しました。  
I hard studied.

○bigの前にwasがない

I was surprised because the junior high school big.

○Satoshiの前にisがない, fatherの後に所有格を表す「's」がない

My father name Satoshi.

○構文違い

I think difficult in English.  
(正しい文はI think English is difficult.)

○冠詞の使い方の混乱

- ・dogにaまたはtheが付いていない  
I like dog.

○スペルミス

He is shot. (→short)

○動名詞・不定詞の使い分け

I like baseballing.  
He tried getting up early. (試しに早く起きた)  
He tried to get up early. (早起きしようとした)

○前置詞の役割

- ・foreign peopleの前にtoなし  
I want to be a teacher and teach Japanese foreign people.

齋藤 (2011) や筆者のwriting活動における生徒の間違ひの多い例からInputやIntakeが成功したかどうかはOutputの結果を見ることによってわかると筆者は考える。

## 2.3 Intakeの重要性

Intakeの重要性に関してCorder (1967) はIntakeされた情報は学習者の長期記憶の貯蔵庫に蓄えられ、必要な時に選択的に利用されると述べている。Ellis (1995) は言語習得を効果的に進めるためにはIntakeの量を増やし潜在知識の量と質を確保することが必要であると述べ、門田 (2007) は繰り返し練習することで話しことばや書きことばの意味の理解に至る前段階の処理を苦もなくできる (自動化する) となると述べている。岩中 (2013) は授業時間の一部を生徒が自由に英語の本を読む時間に充てる授業内読書SSR (Sustained Silent Reading) という多読の一形態を用いて、TOEICのスコアが上位だった生徒がSSRを行うことでその次のTOEICのスコアにどのような影響を与えたのかという実験を行い、結果はTOEICのスコアは上昇し、直読直解できない文が出てきた時には、文法規則、語彙、イディオムなどから考えるという問題解決方法を使用する割

合が高く、結論として、InputのIntakeへの転換が促されるのであれば英語力の向上がもたらされると考えてよいと述べている。岩中 (2013) の実験結果から学習者は情報をIntakeすることで言語発達を促進することができると考える。そしてCorder (1967), Ellis (1995), 門田 (2007), 岩中 (2013) が述べていることから、Inputを活かすのも、Outputを活かすのもIntakeでありInput, Intake, OutputのカギとなるのはIntakeであると考ええる。

## 2.4 本研究におけるInput, Intake, Outputの定義及び研究仮説

先行研究からInput, Intake, Outputがどのように考えられているのかということに関して概観してきたが、本研究における筆者のInput, Intake, Outputの定義および本論文における研究仮説は次の通りである。

### 2.4.1 Inputの定義

Inputとは新教材の導入、単語の意味、基本文型や文法項目を生徒に伝えること、教科書を見ながら発音や音読をさせることと定義する。また村野井 (2006) はInputに関して次のように述べている。

インプットの一部に学習者の注意が向けられた場合、そのインプットは「気づかれたインプット」になる。「気づき」に続く「理解」のプロセスにおいて、「気づかれたインプット」の言語形式、意味、機能の結びつきが理解された場合、それは「理解されたインプット」となる。(p. 9)

本研究においては村野井 (2006) が述べている「理解されたInput」という考え方をを用いてIntakeを定義し、仮説の検証と考察を行う。

### 2.4.2 Outputの定義

OutputとはIntakeされたものを利用してスキヤフォールディング (学習者が新しいスキルを身につける際、教員が手助けや支援として与えるサポート) 無しにSpeaking (話すこと), Writing (書くこと) のような産出活動を行うことと定義する。Outputの結果を見ることによってその言語習得はきちんとできたのか、できていないのかを判断することができる。言い換えればOutputを見ることでIntakeがきちんと行われたかどうかかわかると筆者は考える。

### 2.4.3 Intakeの定義

和泉 (2016) はInputを脳内に取り込んでいく過程がIntakeであると述べ、望月・久保田・磐崎・卯城 (2010) は理解されたInputを自分の中の中間言語 (母語と目標言語の中間にある言語) の体系の中に取り込むことをIntakeというとして述べていることから、「理解されたInput」が中期記憶または長期記憶に保持されることと定義する。

### 2.4.4 研究仮説

筆者はInputを活かすのも、Outputを活かすのもIntakeでありInput, Intake, Outputの流れのカギとなるのはIntakeで

あると考える。そしてIntakeされたかどうかはOutputさせないとわからないと述べた。このことから次の研究仮説を設定した。「Intakeを意識した学習活動を行うことによって、より効果的にInputをOutputに結びつけることができる。」なお、本研究での「Intakeを意識した学習活動」、Input、及びOutputは、筆者が授業実践の中で生徒たちに課している一連の学習課題を指すものとする。詳細については次章で述べる。

## 2.5 仮説の検証と考察

筆者の授業実践では、週4時間の「コミュニケーション英語」の授業において、Intakeの重要性を考慮しながらタスクを支援するワークシートを活用し、Input, Intake, Outputを行った。本研究では、先に述べた研究仮説を検証するために、客観的なデータが得られるOutputの実例として、進研模試大問7「表現力」の結果を用いた。検証に進研模試を利用する理由は、進研模試が実施された時期までに生徒が学習した内容が出題範囲とされている試験であり、プライバシーへの配慮もされているからである。なお週2時間の「英語表現」の授業で学ぶ文法事項については、これが「コミュニケーション英語」の授業で行うOutput活動であるRetellingに多大な影響を与えることから仮説検証の際はInputとして扱う。「コミュニケーション英語」の授業でのInputの内容は資料1、「英語表現」の授業でのInputの内容は資料2である。この段階では英単語集を使って800語程度の語彙のInputがなされている。

## 3. ワークシートを活用した授業の展開

予習段階では資料3と4のワークシートを用い、1回目の

授業では資料4と5を用いる。但し資料4の中の【3】、【4】は資料5を行った後に実施する。3回目の授業で資料6, 7, 8を用いた後に資料9を用いる。

### 3.1 予習課題でのInput

Inputとしての課題（資料3, 資料4）を準備した。資料3のワークシートでは左から右にしか読んではいけないというルールのもとに初見の英文を速読し大意の把握を重視する。Questionに対する答え方はきちんとした日本語でなくても構わずメモ程度でも構わないとしている。資料4のワークシートの【1】、【2】では日本語と英語の意味の結び

章	内容	実施時期
1	文の種類	4月～6月
2	動詞と文型 / 動詞の活用	
3	時制 (1)	
4	時制 (2)	6月～8月
5	助動詞	
6	態・準動詞	
7	不定詞	夏休みの講習 (7月下旬)
8	動名詞	
9	分詞	
10	比較	8月～10月
11	関係詞 / 句と節	
12	仮定法	
13	時制の一致と語法	冬休みの講習 (12月下旬)
14	疑問詞と疑問文	
15	否定	
16	名詞構文と無生物主語の他動詞構文	11月～12月
17	強調・倒置・挿入・省略・同格	
18	名詞	
19	冠詞	1月～3月
20	代名詞	
21	形容詞	
22	副詞	
23	前置詞	
24	接続詞	

資料2 「英語表現」でのInputの内容

	題材・形式・語数	文法事項	実施時期
Lesson 1 "The Power of Vision and Hard work"	題材: 生き方 形式: エッセイ 語数: 5 1 1	単純系と進行形 未来表現 動詞+wh 節/whether 節	4月・5月
Lesson 2 "OH Bento!"	題材: 日本文化 形式: 説明文 語数: 5 4 3	現在完了形 過去完了形 現在完了進行形	6月・7月
Lesson 3 "The Sky's Your Only Limit"	題材: スポーツ 形式: 説明文 語数: 6 2 3	助動詞 疑問詞+to do 名詞+主語+動詞	8月・9月
Lesson 4 "Beavers, Engineers of the forest"	題材: 動物 形式: 説明文 語数: 5 8 0	受動態 さまざまな受動態 関係代名詞 what	10月
Lesson 5 "Chocolate: A story of Dark and Light"	題材: 食文化 形式: 説明文 語数: 6 7 3	不定詞・形式目的語 動詞+A+to do	11月
Lesson 6 "The power of Music to Change Young Lives"	題材: 音楽 形式: 説明文 語数: 7 5 3	使役の構文・動名詞 さまざまな動名詞	12月
Lesson 7 "Talking Plants"	題材: 生物 形式: 説明文 語数: 6 8 6	分詞構文 分詞の形容詞的用法 知覚動詞+A+do/doing	1月
Lesson 8 "One Pen Can Change the World"	題材: 教育 形式: スピーチ 語数: 8 6 3	関係代名詞 関係副詞 比較の表現①	2月・3月
Lesson 9 "Snow Crystals- Winter's Miracles of Beauty"	題材: 自然 形式: 説明文 語数: 8 0 3	関係代名詞の非制限用法 強調構文 比較の表現②	春休みの講習 (3月下旬)
Lesson 10 "The Secrets of the Iceman"	題材: 考古学 形式: 説明文 語数: 7 9 6	仮定法過去・仮定法過去完了 同格の that	

資料1 「コミュニケーション英語」でのInputの内容

Pre-Reading Lesson 1 The Freedom to Be Yourself  
・英文の答えの箇所に架線を引き、簡潔に日本語で答えなさい。

I noticed our family was different from other families when I was a little girl. We weren't following other people's "standards." My mother was a classical viola player in an orchestra. She had a hard time, because in Japan back then it was unusual for a woman to have her own career. She would often come home late from a concert, and my little sister and I would be waiting for her alone. Our family was a constant worry for the neighbors, who would often criticize my mother for leaving us at home.

Q1 他の家族と違っていたところは?

Q2 当時、日本で珍しかったことは?

Q3 近所の人の心配の種だったのは?

資料3 事前に配布する予習課題としてのワークシートの一部

付きを重視し、新出英単語や熟語、文法事項の導入を行う。【3】、【4】は後述する資料5のワークシートを使用した後に行い、英語での内容把握を重視したものである。これらの課題は筆者がInputの定義で示したようにまさに新教材の導入、単語の意味、基本文型や文法項目を生徒に伝えるものであり、村野井(2006)が述べている「理解されたInput」にするための課題である。

### 3.2 授業内でのInput

授業内でのInputとして資料5のワークシートを行う。これは日本語による文法項目の明示的説明、文全体における日本語と英語の結びつき、そして内容把握を重視したものである。その後、前述したように資料4【3】、【4】を使って英語による更なる内容把握を行う。このことを通して新出語彙や新規文法事項が「理解されたInput」となると考える。

### 3.3 授業内でのIntake

授業内のIntakeとして資料6, 7, 8のワークシートを使用し、ペアワークを行う。資料6は文全体における単語、熟語、文法の使われ方、そして内容把握を重視したもので、片方の生徒が言ったフレーズをもう片方の生徒が何も見ずに繰り返すという音読活動を行う。資料7は文全体における日本語と英語の単語、熟語レベルでの結び付きを重視したもので、片方の生徒が( )内の日本語を英語に直しながら全文を読み、もう片方の生徒がチェック役で行う音読活動を行う。資料8は文全体における日本語と英語の結びつきを重視したもので片方の生徒が日本語を読み上げ、もう片方の生徒がその英語を読み上げる音読活動を行う。このように授業内で行っている活動は前述したInputを全て網羅したものであり、InputをOutputに繋げるためのもの(即ちInputされた内容がIntakeされるように仕組みられたもの)である。これらの活動を行った後に成功したOutputが得られれば、これらの活動を通してInputがIntakeされたと言えることができる。

【1】 次の英語を日本語にしなさい。

1. standard 名      2. unusual 形      3. career 名
4. constant 形      5. criticize 動

【2】 日本語に合うように( )に適切な語を入れなさい。

1. 彼女は歯科医に電話をして、翌日のために予約をした。

She ( ) her dentist and ( ) an appointment for the next day.

2. 雨が降りだしたとき、私は買い物に行こうと思っていた。

I ( ) thinking of going shopping when it started to rain.

【3】 本文の内容に合う文はTを、合わない文はFを[ ]に入れなさい。

1. When Yamazaki Mari was a little girl, it was natural for women to seek a professional career. [ ]
2. Mari's neighbors didn't mind that her mother left her daughters at home alone. [ ]

【4】 Answer the following questions below in English.

1. Why did Ms. Yamazaki's mother have a hard time?
2. Why did the neighbors criticize her mother?

#### 資料4 事前に配布する予習課題としてのワークシートの一部

Key 1 : (be) different from A

形容詞 (different) を覚えるなら、次に来る前置詞 (from) と一緒に覚えよう!

Key 2 : have a hard time

have には「(困難・楽しみなど)を経験する」という意味がある!

Cf. have a hard time Ving / have a good time = enjoy oneself

#### 資料5 授業内で行うInputに用いるワークシートの一部

##### Intake Reading① Lesson 1-1

- ① I noticed / our family was different / from other families / when I was a little girl.
- ② We weren't following other people's "standards."
- ③ My mother was a classical viola player / in an orchestra.
- ④ She had a hard time, / because in Japan back then / it was unusual / for a woman to have her own career.
- ⑤ She would often come home late / from a concert, / and my little sister and I / would be waiting for her alone.

#### 資料6 授業内でのIntake活動で用いるワークシートの一部<1>

##### Intake Reading② Lesson 1-1

- ① I noticed our family (～と違っていた<3>) other families when I was a little girl.
- ② We (従っていなかった<2>) other people's "(規準)."
- ③ My mother was a classical viola player in an orchestra.
- ④ She (苦勞した<4>), because in Japan (その当時<2>) it was (珍しい) for a woman (自分の仕事を持つこと

<5>).

- ⑤She (よく～したものだ<2>) come home late from a concert, and my little sister and I would be waiting for her alone.

資料7 授業内での Intake 活動で用いるワークシートの一部 <2>

Intake Reading③ Lesson 1-1	
I noticed	私は気づきました
our family was different from other families	私たち家族が違っていることに他の家族と
when I was a little girl.	幼い少女の頃に
We weren't following other people's "standards."	私たちは従っていなかった他の人の基準に
My mother was	私の母は
a classical viola player in an orchestra.	クラシックのビオラ奏者でしたオーケストラの

資料8 授業内での Intake 活動で用いるワークシートの一部 <3>

### 3.4 授業内でのOutput

Input, Intakeした内容を用い、資料9のワークシートをヒントとしてOutput活動であるRetellingを行う。このOutputは英語による内容把握を重視し、これまでにInputしてきた単語、熟語、文法事項を用いて教科書本文の内容を英文5文以上で表現する。各自が作文した英文5文以上を持ち寄って、ペアやグループでそれらを検討した後に、発表を行う。このOutputに成功すれば、Inputした内容はIntakeされたと言うことができる。

Retelling : Lesson 1	
How different was Ms. Yamazaki's family from other families?	
• Her mother had her own ____	
(=a classical viola player).	
• She often came home ____.	
• Ms. Yamazaki and her little sister were ____ for their.	
mother by themselves.	
• Ms. Yamazaki's family was a constant ____ for the.	
neighbors.	

資料9 Retelling においてヒントとして用いるワークシートの一部

## 4. 仮説の検証

### 4.1 模試の分析

IntakeされたかどうかはOutputさせないと分からないという筆者の見解に基づき、進研模試の大問7「表現力」の問題(100点満点中25点)の結果を客観的データとしてIntakeの成果を検証した。前述の通り、この問題は生徒たちにとっては既習事項が出題されるため、この問題に対する解答という形で現れるOutputは学校の授業で行ったInputがIntakeされたかどうかを判断する格好の材料であると考えた。対象生徒は担当している学年の生徒であり、Intakeを「理解されたInputが中期記憶または長期記憶に保持されること」と定義したことから、Inputを始めてから半年以降の試験日のもの(2018年1月実施)を使用した。実際の問題は本論文の最後に参考として載せてあるが、そこではそれぞれの問題がいつ学習された文法事項に関するものなのか(資料2参照)も示した。出題内容のほとんどが既にInputされた事項であることがわかる。

### 4.2 Outputの結果からみるIntakeに関する分析

果たしてInputはIntakeされたのか。Outputの問題である進研模試の大問7「表現力」の問題の平均点から分析を行った。2017年7月と2018年1月の大問7の平均点を表1、表2に示す。筆者が担当した80人の平均点を見てみると、2017年7月の平均点は7.7点、2018年1月の平均点は8.3点であった(表1)。筆者が担当していない243人の平均点を見てみると2017年7月の平均点は7.6点、2018年1月の平均点は7.8点であった(表2)。筆者が担当したクラスと担当していないクラスとの間の比較を行うに当たり、まず2017年7月の時点では両者に統計的有意差がないことを確かめた( $t(321)=0.19, p=0.85, ns$ )。次に、筆者が担当したクラスと担当していないクラスの間で2018年1月の大問7の平均点を比較した結果、筆者が担当したクラスの方が点数は高かったが、対応のない場合の $t$ 検定を行った結果両者に統計的に優位な差はなかった( $t(321)=0.85, p=0.39, ns$ )。また、筆者が担当したクラスと担当していないクラスとの間で、模試の得点の伸び率に差があるかどうかを、対応のあ

表1 筆者が担当したクラス(80名)の平均点

	平均点	標準偏差
2017年7月	7.7	4.3
2018年1月	8.3	4.7

表2 筆者が担当していないクラス(243名)の平均点

	平均点	標準偏差
2017年7月	7.6	4.2
2018年1月	7.8	4.5

るt検定によって検討した結果、これらの平均点の違いにも統計的有意差はないことが分かった（筆者が担当したクラス： $t(79)=1.03, p=0.30, ns$ ；筆者が担当していないクラス： $t(242)=0.54, p=0.59, ns$ ）が、ピアソン相関の値を見ると、筆者が担当しなかったクラスはほぼ0に等しい（ $r=0.04$ ）のに対し、筆者が担当したクラスは非常に弱い値ではあるが正の相関が出ている（ $r=0.16$ ）ことが分かった。このことから、筆者が担当したクラスは2017年7月の結果と2018年1月の結果との間で、わずかではあるが得点が上昇している可能性があることが見て取れたと言える。

## 5. 考察

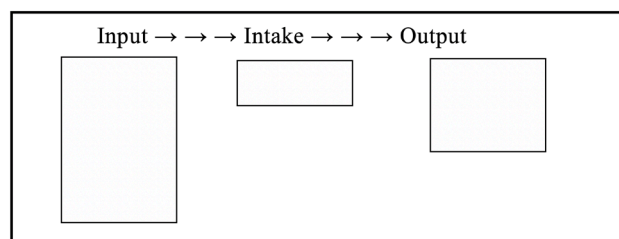
筆者が担当している生徒に対してInputが「理解されたInput」になるように授業前及び授業中に使用するワークシートを工夫してInputを行なった。その後、生徒同士がペアワークで音読をするIntakeが促される活動を時間をかけて行なった。ちなみに筆者がIntakeを促す活動として音読を選択した理由は、仲（2010）が、短期記憶に保持されている情報はリハーサル（繰り返し声に出して唱えたりすること）と呼ばれる情報の反復が行われることで長期記憶へと転送され保持されると述べていること、また門田（2007）が、繰り返し練習することで話しことばや書きことばの意味の理解に至る前段階の処理を苦もなくできる（自動化する）ようになり、そしてそのことが声に出して復唱したり心の中で復唱したりするプロセスを高速なものにし、その結果英語の語彙・構文などを丸ごと記憶できるようになると述べたことを、筆者が支持したからである。Intakeを促す活動の後に行なったのがレッスンで扱った英文を5文以上の英文で説明するRetellingと呼ばれるOutput活動である。このようにInput, Intake, Outputの流れを取り入れ、特にIntakeに時間をかけて、Intakeを意識した授業を行ってきた。筆者が担当したクラスと担当していないクラスの違いは、資料6, 7, 8のワークシートを使用してさらにIntakeを促す活動を行ったか行っていないか、である。筆者が担当したクラスと担当していないクラスの平均点を比べた場合、様々な角度からIntakeを促す活動を更に行なった筆者が担当したクラスの方が平均点が良かったということは、筆者が担当していないクラスに比べてより多くのInputがOutputに繋がった成果であると考えられる。この結果からIntakeを意識して、様々な角度からIntakeを行ってきたことからIntakeされたInputの量は増え、Outputにつながった可能性があると考えられる。

## 6. 結論

本研究の資料6, 7, 8のワークシートをやることによって、より効果的にInputをOutputに結びつけることができたかどうかという点について、「Intakeを意識した学習活動を行うことによって、より効果的にInputをOutputに結びつ

けることができる。」という研究仮説は今回のデータからは明確な結論を導き出すことはできなかった。しかしながら、だからこそ今後もこの実践を続けていき、より長期的な結果を導き出す意義がある。

今回筆者が担当したクラスと担当しなかったクラスとの間で統計的優位差が出なかったことは、Intakeを意識した学習は半年程度では明確な結果に結びつくものではなく、長期的・継続的に行う必要がある可能性を示すものであると考えられる。その意味では、今回統計的優位差が出なかったこと自体が一つの示唆を与える結果であるといえる。本研究の結論としてコミュニケーション重視の英語教育を実現するためにはInput, Intake, Outputのバランスの取れた授業を行うことが重要であり、Outputに繋がるような形でInputを活かすのもIntake次第であり、Input, Intake, Outputの流れのカギとなるのはIntakeであるということは今後も実践研究を続けることによって示していきたい。齋藤（2011）は資料10を使って次のようにInput, Intake, Outputのバランスについて述べている。



資料10 教える際にエネルギーを注いだ大きさ  
（齋藤, 2011, p. 20 より転載）

Input, Intake, Outputの下にある長方形は、大雑把に言って、私たちが教える時にエネルギーを注いだ大きさと考えて下さい。一番やってきたのは、先生によって個人差はありますが、やはりInputだと思います。Inputでは、新教材の導入から始まり、oral interactionなどもこの分野ですし、新教材を声に出して読めるようになること、そして意味内容の理解を含めてInputと考え、やはりここにはエネルギーも時間も費やしてきたと思います。Outputは、英語の教え方の歴史では、近年その重要性が認識され、現在努力中の所と言えるでしょう。ここは、音声によっても書くことを通しても「自分の考え等を述べられる生徒の育成」という分野です。いろいろの試みがなされていることは、先生方ご自身がよくご存知だと思います。ところが真ん中のIntakeのところが一番弱い。（p. 20）

筆者は齋藤（2011）の「Intakeのところが弱い」という考えに同感である。本研究の結論からIntakeの量を増やすことが重要であるということを提言したい。本論文においてはIntakeを意識した学習を行うことが効果的であるということを述べてきたが、果たしてIntakeを意識した学習を行うと、なぜより効果的にInputをOutputに結びつけること

ができるのであろうか。内面的に（例えば脳科学的に）考えてみることを今後の課題としたい。また、前述の通り、Intakeの効果は今回調べたような半年間という短時間では出にくいものである可能性も考えられる。このことから同じ生徒の経年的な追跡調査などを行ってIntake重視の授業の効果を確認するなどの方法も有効であろう。

## 文 献

- 和泉伸一 (2016) 『第2言語習得と母語習得から言葉の学びを考える』 アルク
- 岩中貴裕 (2013) 「英語学習における多読と精読の役割」『Persia』第40号 77-88
- 門田修平 (2007) 『シャドーイングと音読の科学』：コスモピア
- 齋藤榮二 (2011) 『生徒の間違いを減らす英語指導法：インテイク・リーディングのすすめ』三省堂
- 村野井仁 (2006) 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店
- 望月昭彦・久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司(2010) 『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店
- 仲真紀子 (2010) 『認知心理学心のメカニズムを解き明かす』ミネルヴァ書房
- Corder, S. P. (1967). The significance of learners' errors. *International Review of Applied Linguistics*, 5, 161-170.
- Ellis, R. (1995). Interpretation tasks for grammar teaching. *TESOL Quarterly*, 29, (1) 87-105.

## 参考資料 進研模試の大問7「表現力」

(「2018年度進研模試科目別総集編 英語」より)

### 2018年1月の問題

●次の問1～3の英文が自然になるように（ ）内の語(句)を並べかえて、英文を完成せよ。

<大問7-1>

I didn't believe Kate at first, but in (fact / quite / said / she / true / was / what).

→答) fact what she said was quite true  
(関係代名詞のwhat / 10月)

<大問7-2>

Ellie (asked / black / my coffee / I / if / liked / me). I said I liked it with milk.

→答) asked if I liked my coffee black  
(話法と時制の一致 / 11月)

<大問7-3>

When you visit Rome, you (excited / find / many historic places / may / see / to / yourself).

→答) may find yourself excited to see many historic places  
(動詞と文型 / 4月・助動詞 / 6月, 8月不定詞 / 7月, 11月)

●次の日本文中の下線部(ア)・(イ)を英語に直せ。

<大問7-4>

アレックス：きみはこの冬休み、サンフランシスコの高校に短期留学したそうだね。(ア)外国の学生との会話で困ったことがあった？

→解答例) Did you have any trouble in your conversation with foreign students?

(文の種類 / 4月・動詞と文型 / 4月)

<大問7-5>

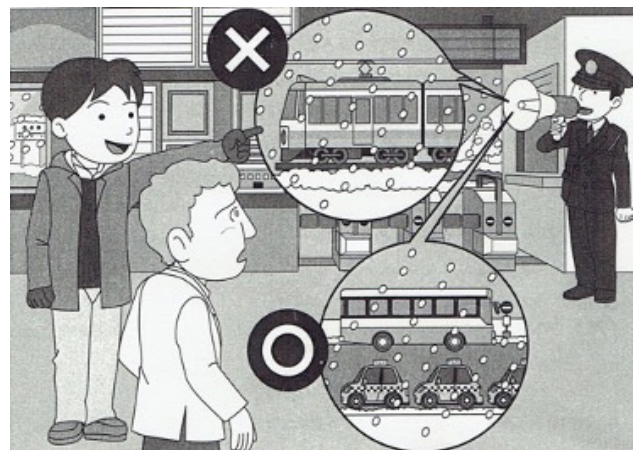
サチコ：ええ。(イ)私の英語では、時々自分の考えが正確に相手に伝わりませんでした。

→解答例) Sometimes I couldn't make myself understood in English.

(助動詞 / 6月, 8月・分詞 / 7月, 1月)

●次のイラストを見て、イラストの中の左側にいる日本人の男性が外国人の男性に伝える助言を15語程度の英語で答えよ。

<大問7-6>



→解答例) Because trains have been stopped because of the snow, you should use a bus or taxi instead.

(助動詞 / 6月, 8月・現在完了形 / 6月, 7月受動態 / 7月, 10月)

### 2018年7月の問題

●次の問1～3の英文が自然になるように（ ）内の語(句)を並べかえて、英文を完成せよ。

<大問7-1>

問1 A: Sir, I simply forget to renew my license.

B: Now that your license has expired, I'm afraid (nothing / I / is / can / there do) about it.

→答) there is nothing I can do

(動詞と文型 / 4月・否定 / 11月・関係詞 / 8月・2月)

<大問7-2>

問2 Most Japanese people today have never experienced. real hunger. They don't know (is / to / like / it / what) be really hungry.

→答) what it is like to  
(動詞+wh節/5月・疑問詞と疑問文/11月)

<大問7-3>

問3 They often talk about Tom as a book-lover. But, in fact, I (as / as / books / have / many / read ) he has.

→答) have read as many books as  
(比較/8月)

information in a short time. This is very important in this modern age.

(動名詞/7月, 12月・助動詞/6月)

●次の日本語中の下線部(ア)・(イ)を英語に直せ。

<大問7-4(ア)・大問7-5(イ)>

青春とは眠いものだ。試験勉強も、よしやろう！とやる気は起きるのだが、(ア)始めて15分で眠くなってしまふ。一説によると、10代の頃は毎晩9時間から10時間の睡眠が必要らしい。体内ホルモンの変化で入眠時間も遅くなるそう。これでは昼間に眠くなるのも無理はないが、せめて授業中は眠らずに(イ)できるだけ一生懸命聞いていようと思う。

→解答例(ア) I feel sleepy fifteen minutes before I began to. drowsy.

(動詞と文型/4月・時制(2)/6月)

→解答例(イ) I will do my best to listen.

(時制(1)/6月・不定詞/7月)

●次の英文は英語ディベート授業の場面である。ICT化(情報化)が進む世界の現状を踏まえ、「日本の小学校では手書きをやめてコンピューター等への文字入力のみを教えるべきである」という議論に対して、反対/賛成の立場に分かれて意見を述べている。反対の立場のマサト(Masato)への反論となるように、賛成の立場のリリコ(Ririko)の空所に20語程度の英語を補え。ただし、2文になっても構わない。

Theme: Japan should teach typewriting only, in place of handwriting.

Masato: Japan should not teach typewriting only, in place of handwriting, because handwriting has a lot of advantages. For example, writing by hand can promote clear thinking. The hand is called the “second brain.” By learning handwriting, especially while in elementary school, students can also develop thinking skills.

<大問7-6>

Ririko : Masato is saying that Japan should not stop teaching handwriting because it is a tool for clear thinking. But I think typewriting has a lot more advantages.

For example, \_\_\_\_\_. Because of this, I believe we should stop teaching handwriting and make time to teach typewriting.

→解答例) through typewriting, we can process a lot of.